# よろこび

日蓮宗 願聖会
本山 妙願寺
長音山 本要寺

## 『よろこび』四十二

貫首　齊藤　日軌　日蓮

### 戒名、法号

戒名とは、仏教において受戒した者に与えられる名前であり、戒律を頂き仏弟子となった者の証です。

また戒名は、仏の浄土における故人の名前です。戒名が与えられることで故人は仏の弟子、日蓮聖人の檀信徒として、霊山浄土へ入ることができます。戒名という言い方は仏教のほとんどの宗派で使われていますが、日蓮宗では法号とも言います。

葬儀の時菩提寺の住職から法号を頂くことが通常です。自分で戒名を付けることはできません。あくまでも菩提寺の住職から頂くのが原則です。仏弟子、日蓮聖人の弟子檀徒である証ですので、ご自身で勝手につけることはいけません。ただ、俗名（本人の名前）の一字を取って戒名とする場合も多く、ご住職がその方の希望や人となりをふまえて戒名を付けてくれます。

院号（いんごう）は、寺院や社会に対して大きな貢献をした人に贈られる。居士（こじ）・大姉（たいし）あつい信仰を持った仏教に見識のある人に贈られる。信士・信女善良な親交のある檀信徒に贈られる。

## みおしえ

「悪いことをなす者は、この世で悔いに悩み、来世でも悔いに悩み、ふたつのところで悔いに悩む。「わたくしは悪いことをしました」といって悔いに悩み、苦難のところ（＝地獄など）におもむいて（罪のむくいを受けて）さらに悩む。善いことをなす者は、この世で歓喜し、来世でも歓喜し、ふたつのところで共に歓喜する。「わたくしは善いことをしました」といって歓喜し、幸あるところ（＝天の世界）におもむいてさらに喜ぶ。（中村元訳）」（法句経十七・十八中村元訳）

第十五と十六番目と同じような句です。ただし、今回の十八・十九番目は行為が後に残す報いにウエイトがあります。

輪廻（サンサーラ）とは、生類がさまざまな状況に生まれ変り死に代わることです。業とは行為のことで、行為は後に何かの影響もたらします。業の理論は、前世における行為が来世に影響を及ぼすとします。業の果報が及ぶのは、来世で、この世で、頑張ってもうまくいかないことがあります。それは前世で善い生き方をしなかったからです。行為はなんらかの影響力を残し、それが次生において効果を及ぼします。だから、よい行為は後に楽をもたらし、悪い行為は苦もたらします。善因楽果、悪因苦果ということになります。

## 心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
善いことをし
良いところに生まれよう